

歴史的町名の復活と活用

仙台城下町倶楽部代表幹事
(株式会社創造研究所) 山崎洋二

城下町仙台の歴史的町名

歴史はその都市の個性的な文化を支えている屋台骨であり、歴史が培ってきた歴史的町名、地名をはじめ、伝統的建物、職人技、昔ながらの祭りや暮らしの習慣などのまちの資源は、単に博物館や資料館に収めておくだけではなく、日常的に使ったり、触れることで初めて「活きた文化」になりうるものである。

伊達政宗が築いた城下町仙台は、かつては全国の城下町と同様に、細かい町名で分けられていた。それらの町名はまちの成り立ちや、まちの中での位置づけ、まちを支えていた生業から名付けられることが多く、まちのアイデンティティにもなっていた。しかしながら、近代化の流れで、昭和37年に郵政事業の効率化などを目的に住居表示法が施行されたため、仙台市は昭和45年に大幅な町名の統廃合を行い、多くの歴史的町名が地図上から消失することになった。

一方で、歴史的町名は町内会の名や通り名にそのまま生き続け、地域の愛着となつて残っており、日常生活では、年配者にとって旧町名を使用するほうがわかりやすかったり、タクシーの行き先を示すにも正確であったりすることも事実であり、市民の中からは、時間の経過とともに都市の記憶が薄れていく寂寥感もあって、歴史的資源として大切に、保存や復活を願う声が大きくなっていったのである。

歴史的町名を現代の生活に

そこで、仙台市は、平成13年の開府四百年を契機に、城下町仙台の由緒ある町名を現在の市民生活に活用し、仙台の魅力の創出と個性あふれるまちづくりに役立て、後世に継承すべく「歴史的町名を道路の通称として活用する路線図（一部）」

を行うことになった。この事業では、市民からの公募を含めて集まった14名の歴史的町名等活用推進委員が平成12年6月から検討を重ね、アンケートにより市民の8割以上が歴史を大切に考えていることがわかったことをふまえて、歴史的町名を現代の生活に復活したいと考えた。しかし、一旦住居表示を行った地域の町名をさらに変更するということは、住民の日常生活に大きな影響を及ぼすことになり、大きな地域全体の盛り上がりや市民合意が必要となることから、より実現性の高い「歴史的町名を道路の通り名として活用する事業」が提案されたのである。

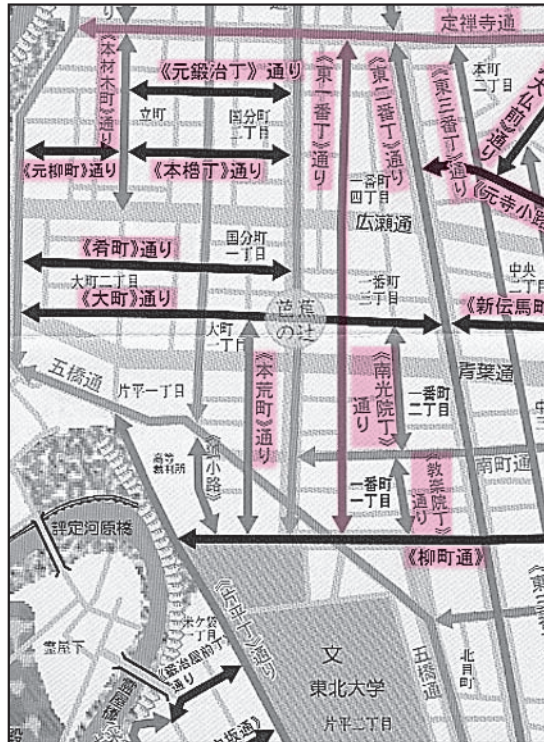
歴史的町名を通り名に生かす

まちの歴史が身近に触れられることは、文化的な豊かさを実感させ、まちの誇りを取り戻し、都市の新たな魅力や価値をつくりだすことになるものであり、歴史的町名を単に保存・復活するだけでなく、市民への広い浸透を図るため、仙台市は歴史的町名ハンドブックやパンフレットなどを作成したり、通り名標柱の設置などにより日常目に触れるようにする取り組みを行っている。通り名の表記は、〈東一番丁〉通り、〈定禅寺通〉、〈元寺小路〉などと、カッコ内に歴史的町名を明示する独自の方式をとっているのが特徴である。

また、長期的視点で、次代を担う子どもたちに

歴史的町名等の知識を伝えるため、学校教育に生かすことも望まれ、同時に、幅広い年齢層の生涯教育や業界への周知も期待されている。歴史的町名の通り名への活用は、このような歴史に身近に触れることのできる「歴史の息づくまちづくり」のスタートとなるものとして位置づけられたのである。

このまちづくりを実現して行くために、平成14年6月には、子どもから大人まで参加できる市民活動団体として「仙台城下町倶楽部」が設立され、市民、行政、事業者が協働して、まちの歴史的資源を活用する具体的な企画・立案とその実施に取り組んでいる。



「歴史的町名を道路の通称として活用する路線図（一部）」
(仙台市歴史的町名等活用推進事業) 資料提供：仙台市